

背景・目的



水素社会実現に向けたFH2Rの役割

日本は「水素社会」の実現に向け、世界に先駆けて水素の利活用を推進し、2021年のエネルギー基本計画では水素を次世代の電源として明確に位置づけています。この目標達成には、技術開発だけでなく国民の理解促進や意識共有が重要であり、特に福島県浪江町の「福島水素エネルギー研究フィールド（FH2R）」が情報発信の中心的な役割を果たしてきました。今後、FH2Rの研究開発棟を水素と国民を繋ぐハブ拠点として位置付け、他施設の事例調査やプロモーション施策の検討を通じて、さらなる効率的な運営を目指します。

本調査は、FH2Rの研究開発棟が今後、より効果的な普及啓発活動を展開し地域や社会との連携を強化する為の運営方針を見定めるものです。

今後の展望

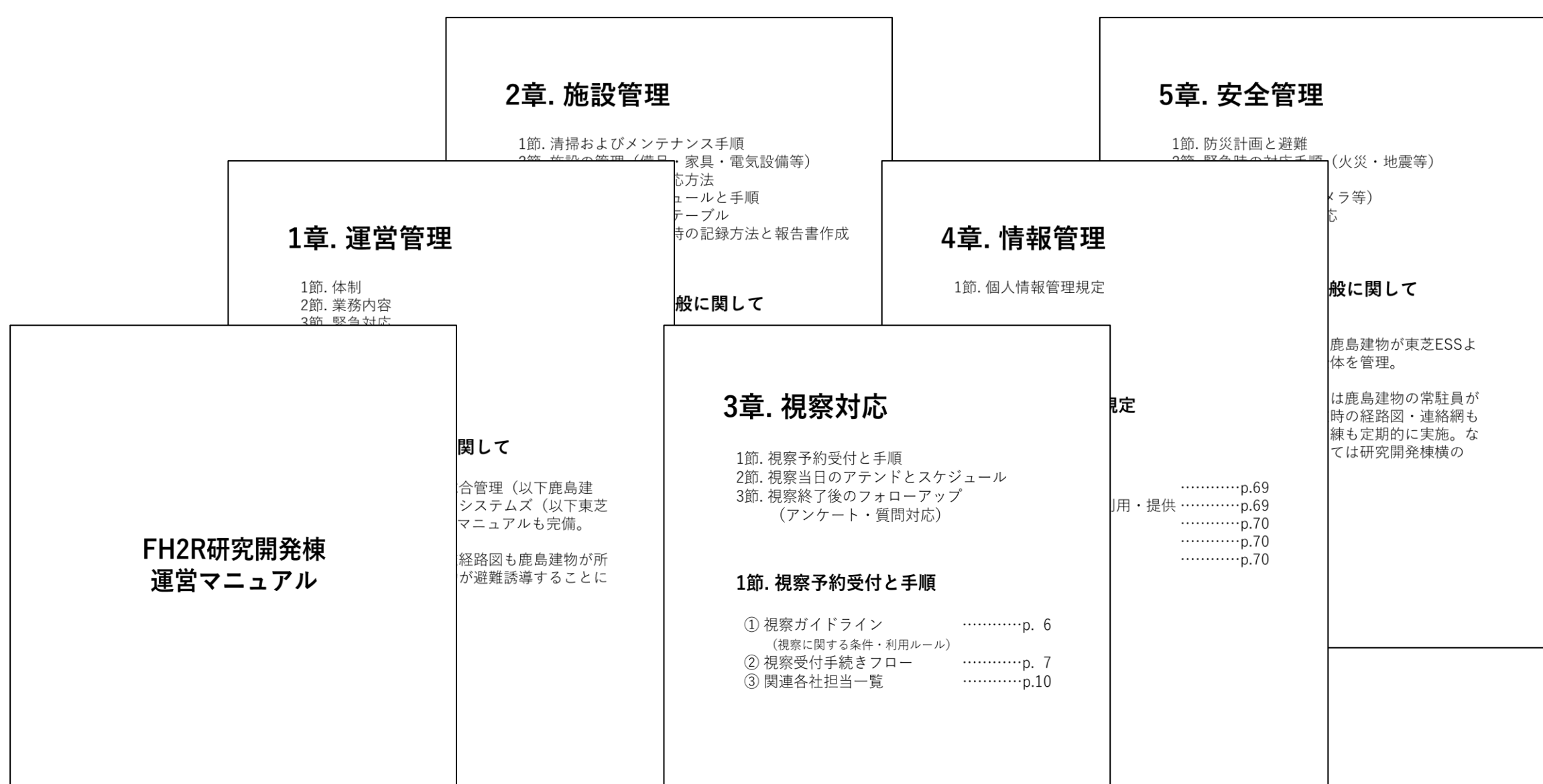
FH2R運営改善案を業界動向調査に基づき提案します

業界動向調査結果

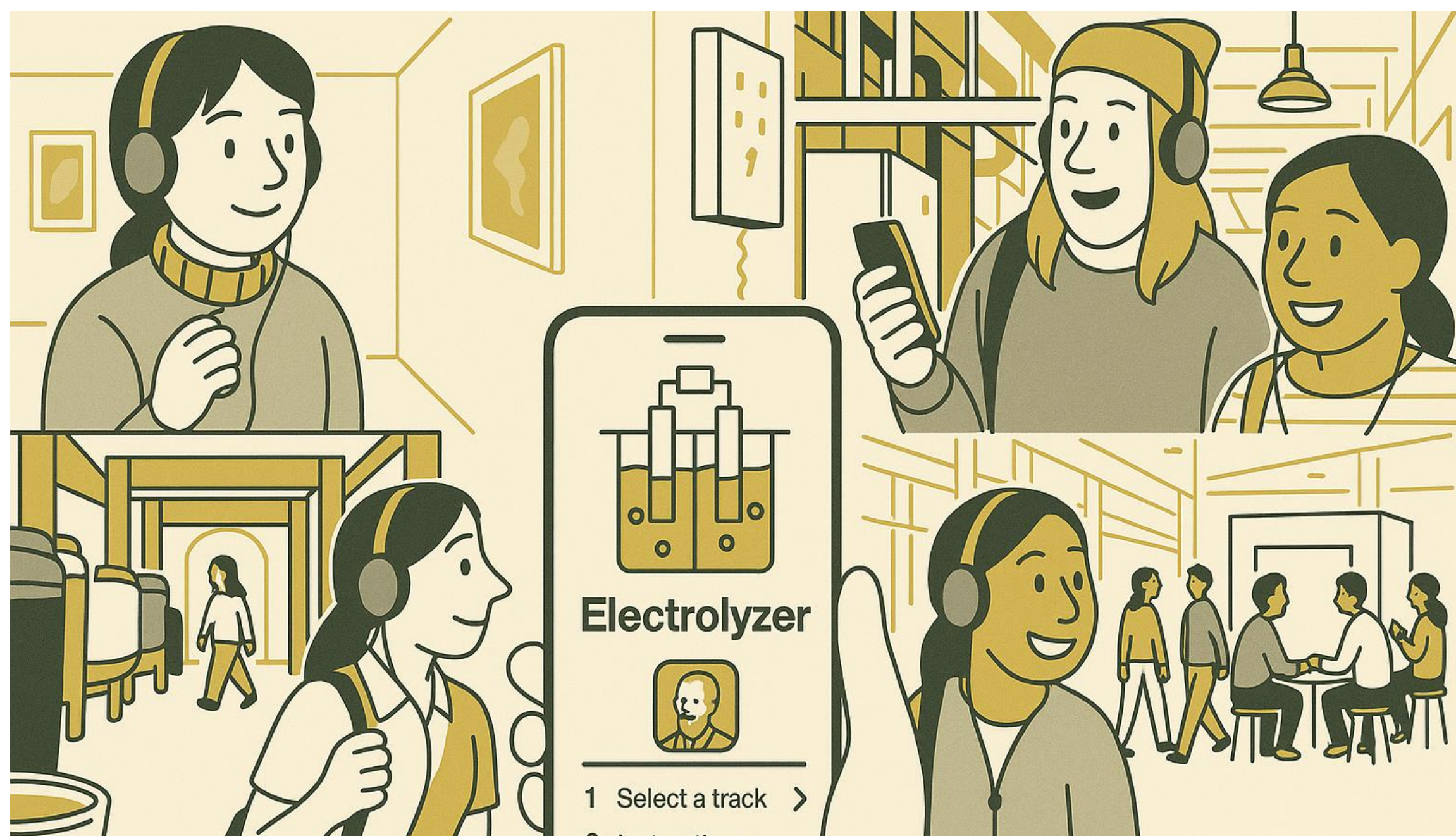
主な運営課題としてモバイル対応とHP改編の遅れが判明しました。解決策として外注化や外部サポートが有効です。さらに、体験型コンテンツの拡充が改善の効果を示し、運営効率化が求められており、是非展示スペースの改修もご検討ください。



視察予約の効率化と情報発信の強化を推進します



視察の均一化を図るマニュアルを作成して地域連携を強化します



海外訪問者の特性を踏まえ、「英語」を基本にした対応を構築します

将来に向けた活用案①

■ 予約対応ホームページの企画立案 視察予約を一元管理化

先行事例調査等を踏まえ、予約対応機能も備えるホームページの要件定義書を作成しました。

多層に及ぶ来訪者の利便性向上

施設の概要、見学コースの概要とモデルプラン、さらには 水素にまつわる情報など、多様な施設見学者の事前情報収集を簡便化できるように必要なコンテンツを整理したホームページをUI等も勘案しながら、方向性をまとめました。

将来に向けた活用案②

■ 視察・アテンド手順書の標準化作成 目的と目標の明確化

FH2Rを訪れる方々にどのような情報を伝えたいかどのような体験を提供したいかを明確にしています。

標準化されたツアープログラム

施設内の案内ルートや説明内容、デモンストレーションなどを標準化し均一な体験を提供します。

将来に向けた活用案③

■ 外国語対応を段階的に強化

伝える力を高める、多層的な英語サポート

団体には専門的な内容にも対応した英語シナリオを用意。個人にはパンフレットを配布し、時間帯に応じてスタッフが案内します。

自動案内で、スマートな見学体験

屋外設備にはオーディオガイドを導入し、一部案内を自動化します。運営の効率化と快適な見学体験を両立します。